



Rotary International District 2660
Service Above Self - One Profits Most Who Serves Best

2022-23年度のための地区研修・協議会

第2部 部門別協議会

米山奨学部門

日 時：2022年4月9日（土）15:30～17:00

会 場：大阪国際会議場 10階 1008号室

司 会：地区米山奨学委員会 副委員長 魚谷 健司

（敬称略）

次 第

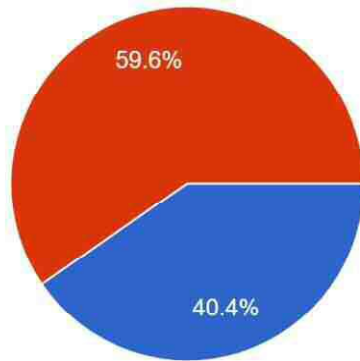
1. 開 会
2. 地区出席者紹介・配布資料確認
3. 開会挨拶 地区米山奨学委員会 次年度委員長 坂田 妙子
4. 米山奨学会の現況について ロータリー米山記念奨学会 理事長/パストガバナー 若林 紀男
5. 米山奨学事業について 地区米山奨学委員会 次年度委員長 坂田 妙子
6. 閉 会

◆ 配布資料一覧 ◆

1. 次 第
2. 米山奨学事業事前アンケート結果
3. ロータリー米山記念奨学事業の基礎知識 ～奨学金制度編～
4. 業務委託〔世話クラブ〕覚書(みほん)



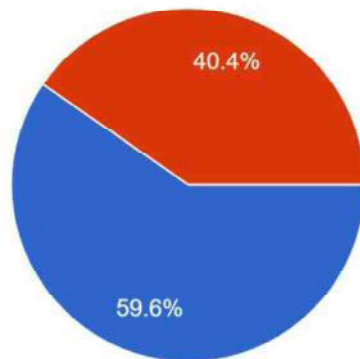
設問1：これまでに米山奨学委員会に関わった経験をお持ちでしょうか？（クラブ・地区問わず）
52件の回答



経験あり ●…40.4%
経験なし ●…59.6%

★今回初めて米山奨学事業に関わる方が半数以上

設問2：10月の米山奨学月間に何か企画をされていますか？（例：米山卓話を予定している等）
52件の回答



企画あり ●…59.6%
企画なし ●…40.4%

企画内容：

- ・米山卓話（11）
- ・奨学生による卓話（12）
- ・米山親善大使による卓話（2）
- ・米山奨学生学友による卓話（1）

- ・奨学生研究内容発表（1）
- ・クラブフォーラム（1）
- ・親睦会（2）
- ・「あの奨学生は今？」（1）

★企画の8割が卓話



設問3：クラブメンバーに米山奨学事業の事を理解して頂くために、卓話等で何が必要で効果的とお考えですか？

(※各クラブコメント一部抜粋)

① 米山奨学事業の成り立ちを歴史から伝えていくこと。

- ・米山奨学事業について知らない方が多いので、詳しく説明をする。
- ・創設者米山梅吉氏の信念や歴史について知ることが重要。
- ・米山梅吉記念館訪問ツアーを実施する。
- ・委員長が卓話をする際は「米山梅吉氏をはじめ米山奨学事業の歴史」に関する話をします。資料は、米山記念奨学会のHPや米山豆辞典の内容を引用しています。
- ・米山奨学事業の歴史を知ってもらうことにより、感謝の気持ちを認識してもらう。
- ・日本における現状の留学生の受け入れ態勢の不備であったり、優秀な留学生が他国に流れてしまっている現状などを踏まえて説明した上で、ロータリークラブの主催する奨学金事業が、民間、政府主導の留学生受け入れに比べ優れている点(例えば、ロータリアンによるカウンセラーや、月例への出席義務など)により、留学生及び、日本国内においても良い結果をもたらすことができることを数値や、資料に基づいて発表、促進すること。
- ・これまでの米山奨学会の成果が分かるもの一事業の歴史、奨学生の喜びの声など 目的・事業内容の説明。
- ・米山奨学生による卓話の時間を予定していますが、中国、韓国からの留学生が多く一部の会員からは、反日教育を実施している国からの奨学生の受け入れに抵抗感があるということを知ったことがあります。個人的にはロータリーの精神や奨学制度の趣旨からすると、この辺りの確執については解消しておくべき事では無いかと思っております。この辺りの意識改革につながるような卓話などすれば良いと思います。

② 米山学友会の体験談。(将来的に見た米山奨学事業の素晴らしさが伝わる)

- ・米山学友会の社会へ恩送りしている姿を見ていただく為、米山学友会に卓話にきてもらう。
- ・米山学友の方々に実際の体験を話してもらう
- ・米山学友10年後、15年後以上の方々から体験談を話していただき、現状の明るく成長された姿を通して、今すぐ貢献のリターンが見えなかった長いスパンでみた奨学事業の素晴らしさや継続の重要性がより実感として伝わるのではないかと思います。
- ・米山奨学生や米山学友の方に、奨学金の受給が自分にとってどのように役立っているのか、実際の体験談を話してもらうのが良いと思います。

③ 奨学生自身のスピーチや活動体験談等。

- ・米山卓話の際に、米山奨学生として参加した米山奨学事業の体験談や、クラブメンバーとの活動体験を通して、ロータリー活動の意義を語ってもらう。
- ・年に2~4回程度の奨学生の卓話、クラブ週報に「奨学生レポート」をできればマンスリーで掲載。
- ・当クラブは連続して奨学生を受け入れていて(現在4人目)年に数回、奨学生から卓話をして貰っています。今何を学んでいるか、どのような事で苦労しているか、就職活動はどうだったか。その一生懸命な様子を知る事でクラブ全員の理解度が高いと考えます。
- ・現在学んでいる具体的な分野や将来の夢を話していただくこと。

④ 奨学生との交流。

- ・メンバーとの交流を深め互いの常識の差を認め合う機会を作り理解しあうのが大事と考えています。
- ・米山卓話の時にクラブメンバーと奨学生が一緒になって学習する・楽しむ・または何かを作り上げる企画が、地区米山奨学委員会の主導で企画・実行される流れを期待している。
- ・スピーチコンテストやスポーツフェスティバル。
- ・米山奨学生とのコミュニケーションを取りたい。

⑤ その他のご意見

- ・地区委員による卓話
- ・他クラブのカウンセラーやカウンセラー経験者に卓話を行っていただくこと
- ・米山奨学委員長による米山奨学事業説明と米山奨学生によるスピーチの両方を行うこと。



設問4：どのようにすれば米山の寄付が集まるとお考えですか？

(※各クラブのコメント一部抜粋)

① 米山事業についての理解を求めること

- 米山事業の素晴らしさ、意義を伝え続けること。
- 米山奨学事業への理解と平素からの啓蒙活動
- 米山奨学事業の歴史、意味、功績を伝えること。
- 米山奨学生が卒業した後に入る米山学友会の活動内容や、社会への貢献状況等をもっとロータリアンにアピールしてはどうでしょうか。意外と米山学友会の存在がロータリアンに広く認知されていないのではと思います。
- 事業が身近にあると感じられるようにすること
- 米山奨学事業の本質を理解し合うことで、賛同してもらえるのではと考えます。
- 実際の活動内容、それにおける効果などを皆さんが理解されれば、集まるかと思えます。
- 米山奨学会への不信感や疑問などが従来のロータリークラブにはあったと思えます。今般、組織が大きく改革され、開かれた米山奨学会を会員に理解されることから始まると思えますし、これからも時代に合った米山活動に知恵を絞るべきだと思います。
- いつまでも創設時の米山奨学会の意義目的を、金科玉条の如く述べられる方が居られます。特に古い会員の方に多く、新しい会員に良い影響は与えていない様に思えます。
- 当クラブでは、時代に合わせた新しい奨学活動を模索しようとしており、仕方なく米山奨学委員会から距離を置く事になっています。勿論、従来の寄付については継続致しますので、会員には今まで以上のご負担をお掛けする事になりますが、理事会で、卓話で、会員の方々との会話を通じて、米山活動の、奨学生支援活動への理解を求めています。結局は、理解と賛同でしょうか。

② 寄付を会費制にする（もしくは、現在会費制である）

- 当クラブでは、一般寄附金と特別寄付金を併せて、会員一人当たり計3万円を目標として毎年取り組んでいます。
- 寄付は自発的するものとも思いますが、事業に理解いただく取り組みを行いながら、各クラブが年会費の中に一定額を組み込むのも一つの案だと思います。
- 米山奨学月間等で特別寄付して貰う。
- クラブ創立初期のころは、会費に入れず任意であったり、分割して毎月徴収をしていましたが、なかなか集まりませんでした。また、毎月お願いをしなければいけない委員長への負担もあったため、会費に入れるという徴収方法に落ち着きました。
- 会費に入れると強制的になるため賛否があるかも知れませんが、会費であれば良いが、個人の財布から出すのには抵抗があるというメンバーもおられました。「集める」に特化するのであれば、会費に入れるのが良いと思います。
会員の理解を深める。



設問4：どのようにすれば米山の寄付が集まるとお考えですか？(前ページの続き)

(※各クラブのコメント一部抜粋)

③ PR・広報活動

- ・広報の機会を増やす
- ・PR 入会時のインフォメーション。
- ・寄付目標 一人当たり30,000円。米山月間に毎週、米山事業に関する情報を提供し、当クラブの寄付状況を伝えると共に具体的に協力者の氏名を発表する。
- ・奨学生の活躍状況のPRなど、寄付の意義を伝える
- ・目標を定め、現在の寄付状況を会員に報告する。
- ・隔週、例会時にPRする
- ・設問3の内容と費用の問題がありますがYouTubeなど宣伝ができれば効果があるかと思います。
- ・会員に米山奨学生や米山記念奨学会について周知する。
- ・当クラブでは毎年、米山奨学会や寄付についての文章を作成し、全会員に送付し例会でも都度呼びかけをし寄付を募っております。設問3でも記載致しましたように反日教育を実施している国からの奨学生の受け入れに抵抗感があるという意見もあるので、今年度の米山卓話の中で奨学制度の趣旨を説明したいと思います。その様な中、直近の奨学生はコロナ禍にありながらも、頻繁に行事に参加してくれており会員との交流にも励んでくれております。

④ 奨学生に求められるもの

- ・奨学生には許される限り毎週例会に出席願い、会員の皆様と懇意になってもらいます。財団奨学生とセットだと考えます。派遣する側、受け入れる側 両側の人材育成の過去の成果をはっきりと見せ、世界の若者を応援する。結果としてロータリアンは世界の豊かさや平和に貢献することになります。
- ・米山奨学生には、月に1回ではなく、可能な限りクラブ例会に出席していただき、クラブメンバーとの親睦を深める事だと思います。
- ・米山奨学生にクラブに溶け込んでいただき、積極的に交流を図ってもらうことだと考えます。
- ・受け入れている奨学生には、時間の取れる限りクラブメンバーと交流すること。
- ・米山奨学生が頑張っている姿を知ってもらうことが大事。

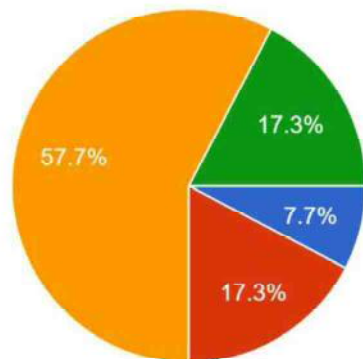
⑤ その他のご意見

- ・委員長自ら例会での働きかけが一番集まります。
- ・個別に協力要請すること。
- ・米山奨学月間等で特別寄付して貰う
- ・個人的に寄付される会員、企業もありますが 当クラブでは 奉仕活動費という予算から会員一律に徴収しています。これも良い方法だと思います。
- ・当クラブでは義務的に徴収していますので、恥ずかしくない程度は集まっています。それ以上は個人の意思でお願いしています。
- ・有志のみから寄付金を募るのは発信が限定的になってしまうので、人道的観点以外にも、メリットを考え、提唱し、仕組みを作ることで、広く募集を行う。
- ・ここ数年、ガバナーと米山奨学委員会の協働により、「ひとりあたり合計3万円の寄付目標」について、その根拠について相互がしっかり理解し、ガバナーから様々な機会に地区内各クラブの会長・米山奨学委員長ならびに会員に、その要請方針をしっかり伝えることが不可欠であるとも思われる。
- ・一度に多額の寄付を望むのではなく継続的に寄付いただくように常にお願ひする
- ・現時点当クラブでは寄付が集まっていると思われるので、更なる啓蒙活動の一環として考えています。



設問5：過去に配属された奨学生の所在をクラブとして把握されていますか？

52件の回答



- すべての奨学生の所在を把握している
- すべてではないがほとんどの奨学生の所在を把握している
- ある程度の奨学生の所在を把握している
- 過去に配属された奨学生の所在は把握していない

設問6：米山奨学事業に対する質問があればお書き下さい。

1. 会員の中からは、奨学生が中国や韓国などの先進国からの学生さんが多いので、奨学生の選択に疑問があるので、寄付する気がしないという声も多いです。実際当クラブの以前の奨学生は親が医師の中国の方が来られてました。その方の色々家庭的な状況等はわかりませんが、そういう意見があることをご報告させていただきます。
2. 米山奨学生との確約には、月1回以上世話クラブに出席する事となっていますが、これまで、池田くれはRCがお世話をさせていただいた米山奨学生は、基本的にすべての例会に出席してくれています。大変良い事だと思っていますが、他クラブの米山奨学生はどのような様子でしょうか。
3. クラブにとって誰でもではなく、受け入れやすい奨学生を選ばせてほしい。
4. クラブメンバーと奨学生が一緒になって学習する・楽しむ・または何かを作り上げる企画が、地区米山奨学員会の主導で企画・実行される流れを期待している。スピーチコンテストとかスポーツフェスティバルなどが考えられよう。
5. 米山奨学について私自身これから学習をしていきたいと思えます。
6. 奨学生と会員の交流が盛んになる様な好事例などあればお教え頂き参考にし、当クラブの週報などに取り入れたいと思えます。あるクラブでは奨学生の名前をタイトルにした〇〇通信の様なペーパーを作っておられました。当クラブでも奨学生に週報へ投稿してもらう事により交流が活発になるのではないかと思います。
7. 国別の奨学生で中国が突出して多いのはなぜですか？
8. 奨学期間終了後、日本と世界の架け橋となる事を願って地区では受け入れを行っているが、どれだけの奨学生がその責務を果たしているか大いに疑問である。

**設問6：米山奨学事業に対する質問があればお書き下さい。(前ページの続き)**

9. 海外の奨学生も、高学歴化の時代の流れに対応して大学生から大学院を希望する方が居られるようになりました。しかし、従来の米山奨学会では2年を限度というルールになっているようです。勿論、「1名でも多くの学生を」という趣旨も理解はしておりますが、その所を、公益財団法人としてフレキシブルな対応は無理なんでしょうか。
10. 質問ではありませんが、中国と韓国の学生数が多すぎると思います。国別に枠を決めるとかして、不公平感をなくしてほしいと感じています。また技術系ではこの2国は軍事と民生の区別がなく軍事に転用できる技術が漏れることが多くなっていると感じています。若者を育てているはずが自国の大事な技術を手背中に負わせて帰らせるなどは、まさに泥棒に追い銭の言葉になるようなことは避けてほしいと思います。
11. 奨学金の寄付は私の認識ではロータリーの会員個人からのものによる寄付となっているとおもいますが、帰属する会社からの寄付を集めることはできないのか？？また一般法人からの寄付の依頼はできないのか？？ふとと思っている次第です。もし企業名を出すことができれば将来、奨学生の採用ということでもプラスに働かないのか？？と思った次第です。

ロータリー米山記念奨学事業の基礎知識

— 奨学金制度編 —

★ ロータリー米山記念奨学会について

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会は、日本のロータリーが協同で運営する奨学財団であり、財源は主に会員の寄付で成り立っています。日本独自のプログラムですが、国際ロータリー（R I）からも国内全34地区の多地区合同活動として認められています。1967年に財団法人設立、2012年1月には公益財団法人に移行しました。

★ 支援の対象は外国人留学生

事業開始から一貫して、日本の大学・大学院などで学ぶ外国人留学生を対象にしています。2019年4月採用の奨学生数は全国で869人と、外国人留学生を対象とした民間の奨学金では国内最大規模です。これまでに累計で、世界129の国と地域からの留学生2万1,024人を支援しています（2019年7月1日現在）。

★ 世界の平和を願って始まった国際奨学事業

事業の始まりは1952年、東京ロータリークラブ（RC）の当時の会長、古澤丈作氏によってつくられた、海外、特にアジア諸国から優秀な学生を日本へ招き、奨学支援する「米山基金」の構想にさかのぼります。

「米山」とは、「日本のロータリーの父」と呼ばれた米山梅吉氏（1868～1946）のことです。タイから初めて奨学生を迎えたのは2年後の1954年。以降は、海外からの招へいではなく、在日留学生への支援に方針を変え、東京RCの単独事業から全国の地区に拡大・発展しました。留学生数の増加に伴い、ロータリー所在国に限らず世界に門戸を開くなど、時代とともに変化しながらも、ロータリアンと外国人留学生との交流を通じて国際親善と世界の平和に寄与する、という事業の目的を今日まで貫いてきました。

★ 最大の特徴は世話クラブ・カウンセラー制度

その目的を実現するための制度が「世話クラブ・カウンセラー制度」です。米山奨学生には、地域のロータリークラブから「世話クラブ」が選ばれ、会員の一人が「カ

ウンセラー」となって、日常の相談相手や交流の橋渡し役となります。奨学生は毎月1回以上、世話クラブの例会や奉仕活動に参加し、大学生活では得られない出会いと交流を通じて、日本の心、ロータリーの心を学びます。会員にとっても、多様な文化や価値観への理解を広げる機会になっています。

★ 学友の集い、モンゴルの次は台北へ

米山奨学生は、奨学期間後に「米山学友」となります。2014年1月のR I理事会で「学友」の定義が拡大され、米山学友も「ロータリー学友」となりました。米山学友の同窓会組織「米山学友会」は現在、日本国内に33、海外に9つあり、学友同士の親睦にとどまらず、日本と母国の奉仕プロジェクトを仲立ちしたり、独自の奉仕活動を実施したり、他の学友会と交流するなど、ロータリーの世界に根を張り、ネットワークを広げています。その一環として、世界各地の米山学友が集う「絆 in モンゴル」が今年7月、モンゴルの首都ウランバートルで開催されました。次回は2021年、R I国際大会が行われる台湾・台北市で、開催に向けた企画が進められています。

なお、今年度の「よねやまだより」では、米山月刊特集となる10月号で「絆 in モンゴル」の報告を、11月号からは昨年度に続き、各米山学友会の活動を紹介する「CLOSE UP! 学友会」シリーズをお届けします。

★ 奨学金の種類と特徴（2019年4月～20年3月）

ロータリー米山記念奨学金一覧	月額	期間	募集システム	人数
1. 学部課程（YU）	10万円	最長2年	指定校推薦	812人
2. 修士課程（YM）	14万円			
3. 博士課程（YD）	14万円			
4. 地区奨励	7万円／ ※10万円	1年／ ※最長2年		17人
5. クラブ支援	14万円	6カ月／ 1年	世話クラブ推薦	9人
6. 海外応募者対象	10万円（学部生） 14万円（大学院生）	2年	公募	27人
7. 海外学友会推薦	14万円（渡航・住居費別）	1年	海外学友会推薦	4人

※高専専攻科、専修学校高度専門士課程の場合



「よねやまだより」では、毎年8～9月号に“基礎知識”を掲載しています。この2号を読めば「米山とは何か」「特徴は?」「寄付はどのように使われているか」など基本的な情報が分かると、毎年好評をいただいているシリーズです。新会員の方はもちろん、ベテラン会員の方にもぜひご一読いただき、“日本のロータリーの誇り”と呼ばれるこの米山記念奨学事業について、最新情報を知っていただければと思います。初回の今月は「奨学金制度編」、来月は「寄付金・財政編」をお届けします。

■ 学部課程・修士課程・博士課程奨学金

—— 大学・大学院生対象のプログラム

大学・大学院の正規留学生在対象で、採用者の9割以上を占めます。2019学年度は学部319人、修士269人、博士224人が採用されました。各地区の米山記念奨学委員会が指定校を定め、推薦された学生を面接選考して合格者を決定します。奨学生が世話クラブに通える範囲内で、地区外の学校も指定校にできます。

■ 地区奨励奨学金

—— 大学・大学院以外の教育機関を対象とするプログラム

地区の裁量によって、短大・高専・専修学校などを指定校にし、在籍する留学生を支援できる制度です。学部相当の高専専攻科、専修学校高度専門士課程を除き、奨学金額が修士・博士課程の半額である代わりに、1人の枠につき2人を採用できます。近隣に大学がない地域にも世話クラブを広げることによって交流の機会が広がり、事業への理解を得られる効果が期待されます。2019学年度は7地区で17人が採用されました。

■ クラブ支援奨学金

—— 現役奨学生のための期間延長プログラム

現役奨学生の世話クラブが、奨学期間を延長して支援したい場合に適用されるプログラムで、6カ月または1年の選択制です。延長期間の奨学金の半額を、世話クラブが負担します。博士号取得見込者のほか、上級課程へ進学する現役奨学生が対象です。ただし、延長によって地区の新規採用人数が減るため、採用を控える地区もあります。

■ 海外応募者対象奨学金

—— 海外在住の日本留学希望者が応募できる制度

日本での留学先が決まっている外国人が、海外から個人で応募できるプログラムです。最も困難を伴う来日初年度から支援でき、奨学期間は2年間です。在日留学生からの選考ではないため、留学生数の多い国に偏らず、国籍や人材の多様化が進められると期待されています。各地区は割り当て数の枠外で1人を採用できます。応募要件として基礎レベルの日本語能力が求められますが、過去に勉学を目的とした日本滞在歴のある人は応募できません。ただし、2020学年度採用から、ロータリーの青少年交換での日本滞在歴は例外として認められます。

■ 海外学友会推薦奨学金

—— 海外学友会との協同プログラム

海外の米山学友会が、現地の日本留学希望者を募集・選考し、推薦するプログラムです。2020学年度は前年度同様、台湾に2人、韓国に1人の推薦枠が与えられます。既に博士号を保持し、大学などに勤務する教授・上級研究者を対象に、日本での研究活動を1年間支援する研究助成プログラムです。この制度は、海外学友会の活性化や現地での米山奨学金の認知度向上に役立っています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業、「よねやまだより」についてのご意見・お問い合わせは、(公財)米山記念奨学会まで。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp

ウェブサイト：www.rotary-yoneyama.or.jp

『50周年記念誌』を読めば、あなたも“よねやま通”に！

財団設立50周年を記念して2017年に刊行した『ロータリー米山記念奨学会50年のあゆみ』（1冊1,800円）は、米山記念奨学事業を理解するのに最高の参考書です。過去50年間の事業から重要な出来事を抽出し、各年代のトピックスを分かりやすくまとめました。例えば、「米山梅吉さんとこの事業の関係は?」「支援する留学生の対象を全ての国・地域に広げたのはいつから?」「大学から応募者を推薦してもらう現在の制度はどのように始まったの?」などなど。これを読めば“よねやま”の全てが分かります。地区やクラブの米山記念奨学委員会の皆さまには必携の資料です。まだお持ちでない方は、ぜひご注文ください。お申し込みは、上記の当会ウェブサイト、または電話、ファクスにて。



見本

2022 学年度
(令和4 学年度)

業務委託に係る覚書
(世話クラブ)

国際ロータリー第2660地区

業務委託に係る覚書（世話クラブ）

国際ロータリー第2660地区（以下「地区」という。）と_____ロータリークラブ（以下「世話クラブ」という。）は、地区が公益財団法人ロータリー米山記念奨学会（以下「米山記念奨学会」という。）から委託を受けた事業の一部を世話クラブに委託するに当たり、以下のとおり覚書を締結する。

1 米山記念奨学会の事業目的

米山記念奨学会は、勉学又は研究のために来日し、わが国の大学等教育機関に在籍する外国人に対して奨学金を支給し、よってロータリーの理想とする国際理解と親善と平和に寄与することを目的として、奨学金の支給等の事業を行っているものである。

2 事業の一部の再委託

米山記念奨学会は、前項の目的の達成のために、地区に対し、別紙「業務委託内容」記載の業務（以下「本件委託業務」という。）を委託しているところ、地区は、本件委託業務のうち「世話クラブ及びカウンセラーに関する業務」（以下「世話クラブ業務」という。）を世話クラブに再委託し、世話クラブはこれを引き受ける。

3 委託業務の遂行

- (1) 世話クラブは、地区ガバナーの指揮監督の下、地区米山記念奨学委員会（以下「地区米山委員会」という。）の協力を得て、米山記念奨学会から世話クラブに委託される米山記念奨学生（以下「奨学生」という。）を支援し、その他世話クラブ業務全般を行うものとする。
- (2) 世話クラブは、奨学生が世話クラブ会員やその家族らと積極的に交流し、クラブの活動に参加することを通じ、ロータリーの理念を学ぶことができるように配慮しなければならない。
- (3) 世話クラブは、地区が第1項の事業目的を達成するために実施する行事に、クラブの米山記念奨学事業を担当する会員を参加させるものとする。

4 カウンセラー

- (1) 世話クラブは、世話クラブ業務を引き受けるに際し、クラブにおいて人格識見にすぐれ、かつ第1項記載の米山記念奨学会の事業目的を十分理解している会員を、奨学生のカウンセラーとして推薦するものとし、これを地区

ガバナーを通じて米山記念奨学会に届け出るものとする。

- (2) カウンセラーは、奨学生が学業に専念し、留学生生活を全うできるように配慮するとともに、奨学生が世話クラブ会員と交流し、クラブの活動に参加することを通じ、ロータリーの理念を学ぶことができるように積極的に支援するものとする。
- (3) カウンセラーは、地区が第1項の事業目的を達成するために実施する行事に、自ら参加することはもとより、奨学生ができるだけ参加できるように支援するものとする。

5 委託業務に係る費用

- (1) 世話クラブは、世話クラブ業務を引き受けるに際し、米山記念奨学会から交付される奨学金及び世話クラブ補助費を受領する銀行口座を予め開設し、その銀行名、口座番号及び口座名義を、地区ガバナーを通じ、米山記念奨学会に届け出るものとする。
- (2) 世話クラブは、米山記念奨学会から奨学生に支給される奨学金を、毎月、クラブ例会において奨学生に手渡すものとする。
- (3) 世話クラブは、米山記念奨学会から交付される世話クラブ補助金を、奨学生の支援のために有効に利用するものとする。なお、世話クラブ補助費については、特段の事情がない限り、精算を要しない。

6 委託業務に係る報告

- (1) 地区ガバナーは、世話クラブに対し、本件委託業務遂行の状況及び結果について、随時、報告を求めることができる。
- (2) 地区ガバナーは、カウンセラーに対し、カウンセラーとして遂行した業務の状況及び結果について、必要に応じて直接質問することができる。
- (3) 世話クラブ及びカウンセラーは、地区ガバナーが前2項によって把握した内容を米山記念奨学会に報告することを、予め承諾する。

7 委託業務に係る指導及び監督

- (1) 地区ガバナーは、世話クラブ及びカウンセラーに対し、本件委託業務の遂行について、必要に応じて指導ないし指示することができる。ただし、カウンセラーに対する指導及び監督は、原則として世話クラブを通じて行うものとする。
- (2) 世話クラブ及びカウンセラーは、地区ガバナーから指導ないし指示を受けたときは、これを尊重し、是正が必要なときは必要な措置を講ずるものとする。

8 危機管理

- (1) 世話クラブは、米山記念奨学会の事業が安全かつ適切に遂行できるように、クラブ関係者に危機管理に関する啓発活動をするとともに、奨学生に危機ないし危険が及んだときは、直ちに必要な情報を地区ガバナーに提供し、共同して解決に当たるものとする。
- (2) カウンセラーは、奨学生がハラスメントの被害を受けるなどの危機や危険に遭遇しないように、常にその安全に配慮するものとする。

9 情報管理

世話クラブは、本件委託業務に係る情報については、慎重に取り扱うものとし、特に、奨学生及び米山学友に係る個人情報漏洩を防止するための適切な措置を講じなければならない。

この覚書は、地区と世話クラブとの間で交わされる同意書であり、米山記念奨学会がその事業目的を達成するために地区に委託した事業の一部を、地区が世話クラブに再委託し、これを世話クラブが引き受けるに当たり、再委託にかかる業務が円滑かつ適切に行われるように定めたものであるから、世話クラブは、この覚書に記載されたすべての条項を遵守することを約束し、同意するものである。

年 月 日

国際ロータリー第2660地区

2021-22年度 ガバナー 吉川 秀隆 ⑩

国際ロータリー第2660地区

2022-23年度 ガバナー 宮里 唯子 ⑩

国際ロータリー第2660地区 _____ ロータリークラブ

2021-22年度 会長 _____ ⑩

国際ロータリー第2660地区 _____ ロータリークラブ

2022-23年度 会長 _____ ⑩